

西市

〔人倫訓蒙圖彙四〕魚屋。諸國より出る、榎木町の西武者小路錦小路等、其外所々にあり。

〔攝津名所圖會大坂下〕雜喉場の市は、毎朝遠近の浦々より鱗をこゝに運びて、鰆鯛の小魚より鯨鯢の大魚あるは左大冲が都賦に書し類まで群をなして市を立る也。抑此市の始は、豊太閤御城を營給ひ、列侯薨をつらね給ふ時、山城伏見の民家命を蒙りて、此地へ多く引移りて、萬物の賈人交易して繁昌の地となる。今之伏見町これ也。諸魚も御城の西にて市をなす、其賣詞に安し（）と高聲に喚る。秀吉公御通駕の時、其賣聲御耳に入安々とは矢の巣の賣聲ならんか。それならば、鞠といふべき也と宣ふ。因茲其町の名を鞠と號く。今之本鞠町是也。都て交易の場を問屋問丸といふ事は、萬の市詞を問合するより名とせり。其初は鮮魚問屋安土町備後町のほとりにあり。今之上魚屋町也。こゝに於て市を立るこれを沖上りといふ。三月より十月迄は温氣なれば、上魚屋町へ運送しぬれば、鮮も鰯ぬれば、今之雜喉場へ浮舗を出し。こゝにて毎朝市を立る也。十月より三月までは本舗にて貰ふ。厥后延寶の頃より西南浦々の漁人本肆へ運送するを厭ひければ、遂に元舗を今之地へ引移し、永こゝにて鮮魚の市を立る事となれり。初鞠町生魚乾魚の問屋のわいだめもなかりしが、後世別れて阿波座に引移し、今新鞠町といふ。

〔攝津名所圖會八上〕魚市。當津宮の前町にあり、これより西の方の漁者船をこゝに寄て、毎朝諸魚の市あり。こゝにより又京師大坂へ早船にて運送し市に商ふ。都て諸魚美味にして兵庫の魚と賞す。

〔守貞漫稿五生業〕大坂ニテ同生業群居スル地ハ、○中雜喉場魚市、鮮魚市也。○中江戸ニテ同生業群居スル地ハ、○中小田原町及本船町邊魚市、問屋中買群居ス、鮮魚市也。